

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

就労を通じた社会的自立をし、生き生きと暮らしていける人材を育成する学校

- ・生徒の人権を尊重し、適切で効果的な指導・支援を行い、「生きる力」を育てる。
- ・生徒一人ひとりが、互いの違いや良さを認め合いながら活躍できる機会を創出する。
- ・社会の変化や多様性に柔軟に対応し、教職員一人ひとりが共に働く喜びとやりがいを感じられる職場を構築する。
- ・卒業後も生徒が笑顔で毎日を過ごせるように、本校の教育活動や生徒の良さを広く発信し、地域、企業、福祉等の関係機関と幅広く連携することをめざす。

2 中期的目標

1 生徒本人を中心に据えた支援・教育活動の充実と、安全安心で活力あふれる学校づくり

- （１）チームによる生徒の実態把握と効果的な支援の実施により、生徒の成長につなげる。
※生徒向け学校教育自己診断「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている」R8：93%（R3：78%、R4：73%、R5：83%）
- （２）全教職員が連携して生徒の安全・安心を常にしっかり守れる体制を構築する。
- （３）情報通信ネットワークを適切に活用するとともに、教職員の個人情報の取り扱いに対する意識を高め、個人情報を適正に管理する。
- （４）偏見や差別を許さない、人権が尊重された教育を推進する。

2 就労を通じた社会的自立をめざす「生きる力」の育成

- （１）１人１台端末を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくりをする。
※教職員向け「主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている」R8：100%（R3：100%、R4：90%、R5：95%）
- （２）生徒が社会の変化に対応できる力を育み、挑戦する意欲や自己肯定感、達成感を向上させる。
- （３）全教職員が連携して、進路学習・進路指導に取組み、生徒一人ひとりにあった進路実現をする。
- （４）実習先・雇用先を確保してマッチング機会を充実するとともに、関係機関との連携を密にし、卒業１年後の職場定着率 94%以上を維持する。
（R3：94%、R4：100%、R5：100%）

3 支援教育における専門性の向上と学校の組織力向上

- （１）初任者や経験年数の少ない教職員の育成を進めるとともに、全教員の支援教育の専門性を高める。
※「授業担当教諭の特別支援学校教諭免許保有率」R8：80%（R3：61%、R4：65%、R3：61%、R5：65%）
※教職員向け「初任者を含む教職経験１～２年めの者及び本校１年めの教職員に対する育成・支援が行われている」R8：75%（R3：63%、R4：73%、R5：65%）
- （２）相互サポートによる校務の効率化と働き方改革に取り組み、教職員の心身の健康の維持を推進する。
- （３）生徒が相談しやすい環境をつくり、必要に応じて関係機関と連携し、チーム学校として対応・支援する。

4 魅力ある取組みの充実と情報発信による高等支援学校への理解促進

- （１）地域等との交流・連携を深め、生徒が活躍できる機会を創出する。
- （２）中学校・支援学校中等部での適切な進路指導を促進するために、本校の教育活動に関して積極的に情報提供をする。
- （３）積極的な広報を行い、本校の取組みと魅力を鮮明に伝える。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒】 全体的に肯定率は高く、日々の取り組みの成果が一定現れていると思われる。次年度もこの水準を維持しつつ、肯定率が80%以下の項目を中心に引き続き日々の教育活動について改善に努める。 「学校へ行くのが楽しい」については、70%は超えているが、前年度比8.6%減という結果になっている。必須項目である「学校へ行くのが楽しい」の質問については、以前から分析や考察の難しさを感じているところである。生徒と教員の関係性に関わる項目については、少数ではあるが否定的な回答があるということを真摯に受け止め、今後も注意深く指導・支援していきたい。 【保護者】 全体的に肯定率は高い数値を維持している。本校の教育活動へのご理解をいただけているとともに、生徒たちの日々の学校生活における成長を実感いただけているのではないかと考える。一方で回答率が二年連続、下がってきていることには危惧している。従来から、各生徒の就労に向けた学習や進路指導等の充実には保護者との連携は欠かせないものである。保護者の日常的な教育活動への興味関心や参画意識を維持もしくは高めていけるよう検討し、工夫を考えていきたい。 【教員】 全体的に肯定率は高い。昨年度の課題であった「教科の個別の指導計画の目標・手立て・評価の作成において、支援教育部を中心とする現行の体制は役立っている」、「本校では、初任者を含む教職経験１～２年めの者及び本校１年めの教職員に対する育成・支援が行われている」については、大きく改善できた。具体的な改善策としては支援教育部（学年Coなどの設定）を立ち上げるなど組織体制を見直したことや、初任者等に関わらず、すべての教員を対象とした専門性向上のための研修などに取り組んだことがあげられる。また「本校では、生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じ	【第1回】 令和6年7月16日（火） ・教員向けに人権意識の向上を図るとあったが、生徒が人権について学ぶ機会があるのかが知りたい。実際社会人になって人権侵害を受けた時に、それを発信できる方が少ないことが課題だと考えている。 ・就労に向けて生徒一人ひとりに応じた細かい進路指導とはどのような指導か。また、就職先の会社の説明などを学校で行っているのか。また、過去に実習を兼ねて稲刈りを体験してもらったが、そのような学習体験のようなものがあるのか。来年からはこのあたりの田がなくなるので、ぜひ体験の機会をもってもらいたい。 ・ICTが普及すると個人情報トラブルも増えそうだが、どのように対応しているか。 【第2回】 令和6年10月1日（火） ・自己診断の「相談できる先生がいる」という項目について、相談窓口の設置が企業でも重要視されてきている。しかし、相談窓口を設置しているが、相談後の流れが決まっておらず課題を抱える会社もある。むらの中では相談後どのような流れで対応しているか知りたい。 ・職場実習の受け入れ先企業の開拓について、過去２年間受け入れがなかった企業への再開拓と新規開拓が合わせて22社と聞いて大変驚いた。そのうち新規の会社はいくつあるか知りたい。 ・仮に今後定員割れが続いたとしたら、入学してくる生徒の障がいの程度の幅が広くなり、より個別の指導が必要な生徒が入ってくるのではないかと。 ・受験者数増加のために一番に中学校の進路指導の教員にむらのがどんなことをやっている学校なのか知ってほしいと思う。受験者数減少の要因として手帳がないと受験資格がないということも大きな壁となっていると考える。枚方支援学校は教室が足りなくなるほどに生徒が増えている。その要因の一つに手帳がなくても入学ができることがあげられると考えている。支援を必要としているのに手帳が取れずにむらのに来られないという子どももいるのではないかと。

府立むらの高等支援学校

て進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」の項目についても 97.3%と大幅に増となっており、MURANO キャリアプランなどの再認識に力を注いだことが結果につながったのではないかと捉えている。「生徒の特性や実態をふまえ教員間で授業の内容や方法等について情報交換や検討する機会を持っている」の大幅な減については、定例会議の設定を減らし、各部署でのフレキシブルな運用に切り替えたことの負の側面が反映されたのではないかと分析している。効果が上がっている面も多くあり、今後さらに運用の精度を上げる検討、工夫をしていきたい。「生徒の人権を尊重して日常の教育活動を行っている」については、各教員の指導感やスタイルなどを尊重しながらも職場集団として十分な意見交換を継続していく必要があると捉えている。回答率が 90%に下がった。回答を業務の一環として捉える意識を再確認しつつ、回答送信の有無が確認できる形式を検討していく。	【第3回】 令和7年1月29日（水） 1. 学校教育自己診断の結果および分析・考察について - 生徒に向けた『学校へ行くのが楽しい』という設問だけ漠然としているように感じるが、結果について学校としての考え方があれば教えていただきたい。学校経営計画の中期的目標をめざすとなると、やはり「楽しい」だけではないのかと感じる。 - 一方、保護者の結果からは安心してむらのに送り出しているように見えるが、PTA 会長としてはどうか。むらのは厳しい面もあるが、就職した際に他の学校と比べて定着率が高いと聞くこともあり、保護者は感謝していると思う。『将来の進路や生き方について考える時間がある』の肯定率が高い。ワクワク、ドキドキという「楽しい」だけでなく「達成感」を、むらのの3年間の中で考えているのだと思った。教員のアンケート結果を見ると、学校行事において魅力あるものにする創意工夫も行っており、卒業後の社会的自立を促すために、生徒にとっては厳しいことがあるかもしれないが、先生方はしっかりとそれを分かったうえで教えていくことを抑えているように感じる。アンケートを行う際に生徒に対して何かアシストはされているのか。 - 中学校と高等支援学校とのギャップが激しい。中学からの進路選択が広がる中、高等支援学校で納得して学ぶために高等支援での学習の意味を送り出す側の中学校に伝えていく必要がある。 - 質問項目に新任教員の教育とあるが、どのようにされているのか。 - 農業が本格的で農協などに就職しても十分通用するのではないか。就職先は大体決まっているところなのか。 2. 令和7年度 学校経営計画について - めざす学校像で「個々のニーズをふまえた」という文言が追加されており、画一的な指導、支援ではなく、子どもが見える形になった。すでにこれまで取組んでこられたことを一歩踏み込み、進められたように感じた。就労をめざす学校で色々大変なことがあるのはわかるが、特別扱いにならない必要な支援はして欲しい。 - 枚方、寝屋川、交野の人事担当者が意見交換する場で、むらのの生徒がすごく礼儀が正しく、就職のための挨拶ではなく、いろんな場面で普段から自発的に挨拶ができるというのがすごいという話があがった。むらのの生徒だけがちがうという話があがった。 - 就職をめざすために入ってきた学校であることは生徒も保護者もわかっているとは思うが、就労継続支援 B 型や福祉事業所のことは、どのように思って、生徒たちは卒業していくのか。 - 実習体験の積み重ね方が大事であるが、先生方はどのように考えているか。 ◆令和7年度 学校経営計画の「1. めざす学校像」「2. 中期的目標」について委員より承認をいただく。本日の議題に対して具体的に検討し、次年度に報告をしていく。
---	---

府立むらの高等支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価 <※学校教育自己診断は、【生】:生徒向け、【保】:保護者向け、【教】:教職員向け>

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 生徒本人を中心に据えた支援・教育活動の充実と、安全安心で活力あふれる学校づくり	(1) 生徒の実態把握と効果的な支援の実施 (2) 生徒の安全・安心を守る体制の構築 (3) 個人情報の適正な管理 (4) 人権を尊重した教育の推進	(1) ・個別の教育支援計画・指導計画を活用し、生徒に目標を明確に示すとともに、組織的に支援方法の工夫を検討する。 (2) ・緊急事態への対応として、併設校と連携し、実効性のある危機管理体制を確立する。 (3) ・校内ルールを点検し、実態に即したルールを定め、個人情報管理の適正な管理を進める。 (4) ・教職員の人権感覚を一層磨き、人権意識の高揚を図る。 ・がん教育を推進し、生徒のがんに対する理解を深める。	(1) ・支援教育コーディネート（個別の教育支援計画・指導計画の作成・管理など）を担当する新たな分掌を設置する。 ・【生】 「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている」 肯定率：85% [83%] (2) ・防犯・防災計画の見直し・点検を8月末までに完了する。 (3) ・個人情報管理に関する校内ルールの見直し・点検を8月までに完了する。修正が発生する場合は、研修等により校内周知を徹底する。 (4) ・【教】 「生徒の人権を尊重して日常の教育活動を行っている」 肯定率：95% [93%] ・教職員向けの人権研修を2回以上実施する。 ・外部講師を活用し、全学年でがん教育を実施する。	(1) 支援教育部を新たに設置した。R6年度からは名称を支援部とする。 肯定率：85%(○) (2)防犯・防災計画を8月までに見直し、点検した(○) (3)個人情報の保管場所、個人情報の配付時のルールについて ICT 推進委員会において、8月までに点検した。(○) (4)肯定率：83%(△) 年度当初に1回、8月に1回教職員向けの人権研修を実施した。(○) 文科省の通達に沿って外部講師によるがん教育を実施した。当初は全学年としていたが、校内で検討した結果、卒業前の3年生に実施することになった。(△)
2 就労を通じた社会的自立をめざす「生きる力」の育成	(1) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくり (2) 生徒の自己肯定感・達成感の向上 (3) 生徒の企業就労支援 (4) 就労率・定着率の向上	(1) ・コンテンツの共有化や研究授業・事例研究などによる情報共有を進め、ICT 機器をさらに活用した、わかりやすい授業づくりを進める。 (2) ・各行事や活動の目的や内容を再点検し、生徒が主体的に取り組み、達成感をえられる取組みを実施する。 (3) ・生徒一人ひとりに応じたきめ細かい進路指導を行う。 (4) ・マッチング機会を増やすため、実習・雇用先の開拓・確保に積極的に取り組む。 ・卒業生進路先へのアフター訪問を継続的に実施して定着支援を行う。	(1) ・【教】 「主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている」 肯定率：95%以上を維持 [95%] ・【生】 「先生は授業や行事でタブレットを使って、わかりやすい学習をしてくれている」 肯定率：93%以上を維持 [93%] (2) ・【生】 「本校には達成感を味わうことができる活動がある」 肯定率：94%以上を維持 [94%] ・【生】 「本校の行事は楽しい」 肯定率：91%以上を維持 [91%] (3) ・【生】 「先生は、将来の進路や職業について自分にあったアドバイスをくれる」 肯定率：97% [95%] ・【保】 「学校は、将来の進路や職業について適切な指導を行っている」 肯定率：98%以上を維持 [98%] (4) ・「新規実習受入企業」が30社以上 [25社] ・卒業1年後の職場定着率：94%以上を維持 [100%]	(1)【教師】 肯定率：94%(○) 【生徒】 肯定率：98%(◎) (2) 「本校には達成感を味わうことができる活動がある」 肯定率：94%(○) 「本校の行事は楽しい」 肯定率：91%(○) (3)【生徒】肯定率：95%(○) 【保護者】肯定率：98%(○) (4) 「新規実習受入企業」が30社以上実際に実習の依頼をしたのは26社(○) 卒業1年後の職場定着率96%(○)

府立むらの高等支援学校

3 支援教育における専門性の向上と学校の組織力向上	(1) 支援教育の専門性向上 (2) 校務の効率化と働き方改革 (3) 関係機関との連携	(1) ・研修計画を立案し、OJT(On the Job Training)やOJL(On the Job Learning)により支援学校での勤務経験が少ない教員への育成・支援を行う。 ・特別支援学校教諭免許保有率が向上するよう、研修情報などを積極的に提供し、支援する。 (2) ・校務運営に ICT やグループウェアを十分に活用し、業務を効率化する。 (3) ・事案に対して、チーム学校として全教職員が同じスタンスで対応できるよう、校内研修を充実する。	(1) ・【教】 「初任者を含む教職経験1～2年めの者及び本校1年めの教職員に対する育成・支援が行われている」 肯定率：75% [65%] ・特別支援学校教諭免許保有率 保有率：70% [65%] (2) ・1人あたりの時間外在校時間が前年度より10%以上減少する。 月平均19.2時間以下 [21.3時間] (3) ・SSWのアドバイスを得ながら、福祉機関などの関係機関との連携についての校内研修を実施する。	(1) 肯定率：81%(◎) 特別支援学校教諭免許保有率 75%(○) (2) R6.12月時点で月平均19.7時間まで減少。 (○) (3)SSWによる教職員向けの研修を実施。(○)
4 魅力ある取組みの充実と情報発信による高等支援学校への理解促進	(1) 地域等との交流・連携強化と、生徒が活躍できる機会の創出 (2) 中学校への積極的な情報提供 (3) 本校の取組みや魅力を伝える積極的な広報	(1) ・地域の小・中・高等学校と生徒間の交流を図る。 (2) ・地域の中学校や支援学校中等部へ進路指導に有効な情報を発信する。 (3) ・ホームページやブログを効果的に活用し、タイムリーに情報発信をする。 ・企業や事業所の個別学校見学を積極的に受け入れる。 ・開校10周年行事を実施する。	(1) ・異なる校種との新たな交流の取組みを1件以上実施する。 (2) ・地域の中学校に「むらのセミナー」や公開授業週間を案内し、合計で60名以上が参加する。 [58名] (3) ・年間情報発信計画に基づき、滞りなく情報を発信する。 掲載回数 86回以上[86回] ・個別見学会の実施回数 71回以上 [71回] ・12月に記念式典を実施する。 記念誌・記念品の制作が完了する。	(1) コロナ禍以前までの取り組みを復活させる予定であったが、今年度は実施できず。(△) (2)参加者数は41名。開催時期等の検討は必要であるが、今年度は高等学校からの参加希望があった。(△) (3) 掲載回数は1月20日時点で36回。昨年度はブログでの発信を強化する年度として86回。今年度は上回ることができなかったが、行事等について発信することができた。(△) 個別見学会の実施回数は1月末時点で45回以上(△) 但し、評価指標はR5の合同見学会の来校事業所、企業の数を含めたもの。 記念式典実施。記念誌・記念品完成(○)